

お話を読もう

年 組 名 前

◎ つぎの お話を読んで、答えましょう。

大きな でんでん虫の せなかに うまれたばかりの 小さなでんでん虫が のって いました。小さな 小さな すきとおるようなでんでん虫でした。

「ぼうや ぼうや。もう、あさだから、めを だしなさい。」と、大きな でんでん虫が よびました。

「あめは ふって いないの？」

「ふって いないよ。」

「かぜは ふいて いないの？」

「ふいて いないよ。」

「ほんとう？」

「ほんとうよ。」

「そんなら。」と、ほそい めを あたまの うえに そーっと だしました。

「ぼうやの あたまの ところに 大きな ものが あるでしょう？」と おかあさんがききました。

「うん、この めに しみる もの これ なあに。」

「みどりの はっぱよ。」

「はっぱ？ いきてんの。」

「そう、でも どうも しや しないから だいじょうぶ。」

「あ、かあちゃん、はっぱの さきに たまが ひかってる。」

「それは あさつゆって もの。きれいでしょ。」

「きれいだなあ、まんまるだなあ。」

「すると、あさつゆは、はの さきから ぴよいと はなれて ぷつんと じべたへ おちて しまいました。」

「かあちゃんの、あさつゆが にげてっちゃった。」

「おっこちたのよ。」

「また はっぱの とこへ かえって くるの。」

「もう、きません。あさつゆは おっこちると こわれて しまうのよ。」

「ふーん、つまないね、あ、しろい はっぱが とんで ゆく。」

「あれは はっぱじゃ ないこと、ちょうちょうよ。」

ちょうちょうは、きのはの あいだを くぐって そら たかく とんで いきました。ちょうちょうが みえなくなると、こどもの でんでん虫は、

「あれ、なあに。はっぱと はっぱの あいだに、とおく みえる もの。」とききました。

「そらよ。」と、かあさんの でんでん虫は こたえました。

「だれか、そらの なかに いるの？」

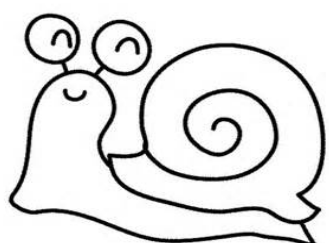
「さあ、それは かあさんも しりません。」

「そらの むこうに なにが あるの？」

「さあ、それも しりません。」

「ふーん。」小さい でんでん虫は、おかあさまでも、 わからない ふしぎな とおい そらを、ほそい めを 一ぱい のばして いつまでも みていました。

① 小さなでんでん虫がどこにいるかわかるように、□の中に小さなでんでん虫をかき入れましょう。



② まいこさんは、大きなでんでん虫と小さなでんでん虫のことを、次のようにせつめいしています。
□の中に入る言葉を書きましょう。

大きなでんでん虫と小さなでんでん虫は□です。
なぜなら、小さなでんでん虫が、「□イ□」と、大きなでんでん虫をよんでいるからです。また、大きなでんでん虫も、自分のことを「□ウ□」といっています。
さいごに、□エ□というちがったよびかたをしているのがおもしろいです。



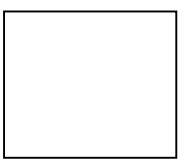
ア () イ () ウ () エ ()

③ 小さなでんでん虫がはじめて見たものは、どの組み合わせが正しいですか。

オ かぜ はっぱ ちょうちよう

カ あめ かぜ あさつゆ

キ はっぱ あさつゆ ちょうちよう



④ 「そらのむこうになにがあるの。」という、小さなでんでん虫のしつもんに、あなたならどう答えますか。小さなでんでん虫に教えてあげるように書いてみましょう。

お話を読もう（こたえ）

年 組 名 前

◎ つぎの お話を読んで、答えましょう。

大きな でんでん虫の せなかに うまれたばかりの 小さなでんでん虫が のって いました。小さな 小さな すきとおるようなでんでん虫でした。

「ぼうや ぼうや。もう、あさだから、めを だしなさい。」と、大きな でんでん虫が よびました。

「あめは ふって いないの？」

「ふって いないよ。」

「かぜは ふいて いないの？」

「ふいて いないよ。」

「ほんとう？」

「ほんとうよ。」

「そんなら。」と、ほそい めを あたまの うえに そーっと だしました。

「ぼうやの あたまの ところに 大きな ものが あるでしょう？」と おかあさんがききました。

「うん、この めに しみる もの これ なあに。」

「みどりの はっぱよ。」

「はっぱ？ いきてんの。」

「そう、でも どうも しや しないから だいじょうぶ。」

「あ、かあちゃん、はっぱの さきに たまが ひかってる。」

「それは あさつゆって もの。きれいでしょ。」

「きれいだなあ、まんまるだなあ。」

「すると、あさつゆは、はの さきから ぴよいと はなれて ぷつんと じべたへ おちて しまいました。」

「かあちゃんの、あさつゆが にげてっちゃった。」

「おっこちたのよ。」

「また はっぱの とこへ かえって くるの。」

「もう、きません。あさつゆは おっこちると こわれて しまうのよ。」

「ふーん、つまないね、あ、しろい はっぱが とんで ゆく。」

「あれは はっぱじゃ ないこと、ちょうちょうよ。」

ちょうちょうは、きのはの あいだを くぐって そら たかく とんで いきました。ちょうちょうが みえなくなると、こどもの でんでん虫は、

「あれ、なあに。はっぱと はっぱの あいだに、とおく みえる もの。」とききました。

「そらよ。」と、かあさんの でんでん虫は こたえました。

「だれか、そらの なかに いるの？」

「さあ、それは かあさんも しりません。」

「そらの むこうに なにが あるの？」

「さあ、それも しりません。」

「ふーん。」小さい でんでん虫は、おかあさまでも、 わからない ふしぎな とおい そらを、ほそい めを 一ぱい のばして いつまでも みていました。

① 小さなでんでん虫がどこにいるかわかるように、□の中に小さなでんでん虫をかき入れましょう。

大きなでんでん虫の背中の上に、小さなでんでん虫がかけていれば、正答とする。



② まいこさんは、大きなでんでん虫と小さなでんでん虫のことを、次のようにせつめいしています。
□の中に入る言葉を書きましょう。

大きなでんでん虫と小さいでんでん虫は□です。

なぜなら、小さなでんでん虫が、「□イ」と、大

きなでんでん虫を よんでいるからです。また、大きなでんでん虫も、自分のことを「□ウ」といっています。

さいごに、□エ という ちがったよびかたをしているのが おもしろいです。



ア（親子または母と子）イ（かあちゃん）ウ（かあさん）エ（おかあさま）

③ 小さなでんでん虫がはじめて見たものは、どの組み合わせが正しいですか。

オ かぜ はっぱ ちょうちよう

カ あめ かぜ あさつゆ

キ はっぱ あさつゆ ちょうちよう

キ

④ 「そらの おこうに なにが あるの。」という、小さなでんでん虫のしつものに、あなたならどう答えますか。小さなでんでん虫に教えてあげるように書いてみましょう。

かいとうれい

解答例・そらのおこうには、白いくもがたくさんあるんだよ。

・うちゅうがあつて、星がたくさん光っているよ。

（空の向こうにあるものを、教えてあげるように書いていれば、正答）

せいとう